

# 週刊大貫のり夫

## 市政ファイル No.461

日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2014年11月19日(水)

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6



## 安心できる高齢者福祉・介護計画に

### 高齢者福祉計画・介護保険計画について市長に申し入れ

日本共産党横浜市議団は14日、横浜市が10月に発表した「第6期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画素案」に関する改善の申し入れを行いました。

#### 求められる独自の福祉施策充実

先に国会で成立した「医療・介護総合法」は要支援者切り、特別養護老人ホームから軽度者を締め出し、

一定以上の所得者の利用料を二割負担に引き上げ、病床数の削減など、今以上に公的介護・医療保障を土台から掘り崩す大改悪です。

これを受けて市が策定する第6期計画では、介護保険ではできなかった市独自の福祉施策を充実させること、専門職ではないボランティアや自治会など多様な地域福祉の担い手

に加重負担を押し付けるのではなく、本来の役割が果たせるようきめ細かな支援を行うことなどが求められています。

(2面へ)



(左から) 柏崎副市長に申入書を手渡す私・大貫 11月14日横浜市役所

無料法律相談

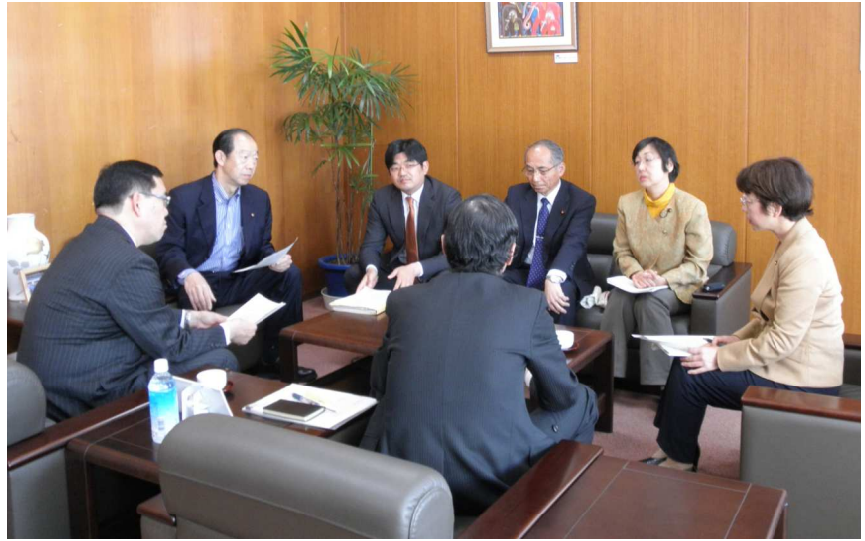
12月18日

予約制

090-5311-1879  
大貫まで

# 介護保険料の大幅値下げなど11項目を要求

(1面より) 申し入れでは、成立した総合法の具体化とされる「ガイドライン」の撤回と介護保険制度への国庫負担の抜本的な増額を国に対して求めること、あらゆる手立てを講じて介護保険料の大幅値上げはやめると、介護利用料の減免



申し入れ後、柏崎副市長らと懇談する日本共産党横浜市議団。  
左から2人めは私・大貫=11月14日、横浜市役所

制度を拡充すること、特別養護老人ホームの入所対象から外される「要介護1・2」の方々のために軽費老人ホームを増設するなど受け皿施設を整備すること、年300床の特別養護老人ホーム増設のペースを上げるなど具体的に11項目を求めました。

## 元気な高齢者を増やす方策を

申し入れにあたって、私・大貫は、高齢化社会をプラスにとらえ、高齢者向け事業を横浜経済の内発的発展を担うひとつの産業として捉えることが大切だと述べました。

古谷やすひこ議員は誰もが安心して必要なサービスを受けられる

制度へと改善するよう求めました。岩崎ひろし議員は、介護保険を受けなくてもよい元気な高齢者を増やすための施策が弱いと指摘し、あらかし由美子議員は、敬老パスを例に上げ、健康寿命を伸ばすための行政サービスを充実させるよう求めました。白井まさ子議員は、特別養護老人ホームに入りたい人が入れるような入所基準とすることを求めました。

対応した柏崎誠副市長は、持続的効率的に市民に届く福祉施策を行っていききたいと答えました。申し入れには、細川哲志高齢健康福祉部長が同席しました。

**11月22日(土) カジノシンポ開催**

寄稿

# 町内自治会を考える (6)

桜台在住 棚橋克郎

最近新聞で自治会が崩壊の瀬戸際になったり、一触即発のにらみ合いになったりという記事に出会った。両方とも他人事とは思えない。

前者：私の自治会でも何年も前に高齢者などが輪番の班長（20軒程度の会員のまとめ役）を担当出来ないとの話を聞き、すぐさま近所の自治会に問い合わせしてみたが、模範がなかったので、規約を改正して准会員制を作った。会費を負担する以外の義務を免除し、権利は会員と同様という内容だった。その後5年程度になるが、誰一人准会員適用を申請していない。しかし調べてみると、そういう高齢者は班員が輪番から外して協力的に処理してくれているようだ。

後者：私の自治会自身、連合自

治会とここ数年もめている。新聞記事にあった揉め事は特定地域が集団で自治



会を脱退する、それにつれて自治会がその地域の防犯灯を撤去し、脱退者たちが独自に防犯灯を設置する、そしてにらみ合いになっているという驚くべきことだった。

永年自治会などをやっているといつい勘違いするのか、「自治会は会員のため」、「連合自治会は各単位自治会のため」にあるとの原則を忘れている人がいるようだ。

つづく



## お兄ちゃん、来年一年生

孫の話ばかりですみません。お兄ちゃんのはるとは、もう6歳。来年一年生です。妹のこなつは3歳。長女の方の孫たちです。

先週末、埼玉からやって来ました。その途端、家の中は運動会です。じいちゃんと一緒に、庭の畑からニンジン抜きました。

# 中学校昼食 保護者の負担軽減策が削除に 事前説明と異なる常任委員会での説明

10日に開かれた横浜市会のことも青少年・教育委員会の常任委員会で報告された「横浜らしい中学校昼食のあり方(案)」が、事前に議員に説明があったものと異なっていました。

事前資料から削除されたのは、「配達弁当は、(中略)購入しやすい価格で提供できるように本市で経費の一部を負担する」と「養育に支援が必要な世帯等に対しては、配達弁当の無料提供を検討する」、およびこれらに関連する部分などです。

一方、当日資料に新たに加えられたのは、「一人ひとりの状況に合わせて作ることができる家庭弁当の良さを尊重」の一文です。

結果、自民党が予てより主張している内容に酷似したものになってしまいました。

委員会後に同委員会委員である白井議員が市の担当者に聞いたと

ころ、「予算の見込みが立っていない。いろいろと意見があったために、変更した」との説明でした。



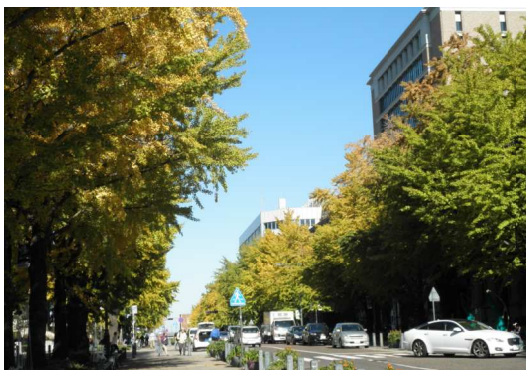
通常、常任委員会での審議などの際には、事前に市の担当部署からの報告を受け、議員はその報告に基づいて質問の準備などを行います。しかし、肝心なところが事前の報告と違っていれば、準備が役に立たないこととなります。

これは、明らかな議会軽視です。

今回は、事前の案が給食に近いものであったため、中学校給食の実施を阻止する一部の勢力の圧力によるものと考えざるを得ません。

市や議会が不当な力に屈っして言い訳はありません！議長及び当局にきびしい抗議をするものです。

解散総選挙！ 日本共産党の躍進で、安倍自民党暴走政治にストップを！



ミジソコの独り言 横浜でも紅葉が始まった。16日に今年で最後の横浜女子マラソンが行われた山下公園では、黄色いイチョウがちらほら。市内では三溪園の紅葉が有名。県内では、箱根と大山が日本紅葉の名所100選に選ばれている。やっぱり日本はいい！(M)